

# 国語科学習指導案

平成15年10月27日(月)第2校時  
2年A組 指導者 椎原 由美

## 授業の視点

関心・意欲を見る自己評価や朗読を聴いての相互評価をもとに、それぞれ次の課題に取り組むことは、古典の文章に慣れ親しむうえで効果的であったか。

1. 単元名 5 古典に親しむ 平家物語 敦盛の最期

2. 指導目標

登場人物の考え方や生き方について考える。[読むこと]

仮名遣いや語句の意味に注意しながら、文章のリズムをとらえる。[言語]

3. 指導計画(7時間予定、本時はその6)

時間	ねらい	生徒の活動	評価の観点(評価の方法)
1	冒頭を音読し、『平家物語』について知る。	・平曲のCDを聞き、「祇園精舎」を音読する。 ・口語訳を読み、作品全体を貫く無常観について理解する。	・わからない読み方を挙げて確認している[関心・意欲・態度](発言)
1	「敦盛の最期」を音読し、あらすじや人間関係をつかむ。	・文語文の読み方を確認する。 ・文語文と現代語訳を交互に読みながらあらすじをまとめる。	・直実と敦盛の言動から、あらすじや人間関係をつかむことができる。[読むこと](発言・ノート)
2	直実と敦盛の心情の変化を考える。	・場面ごとに、登場人物の心情を会話文から想像してワークシートにまとめる。	・直実の苦悩や敦盛の誇りの高さを会話文からつかんでいる。[読むこと](ワークシート)
2	文章のリズムのよさを生かしながら朗読する。	・「祇園精舎」はできる限り暗唱する。 ・読み方の工夫を記入しながら練習する。 ・朗読をペアで評価し、各自課題に取り組む。	・文語文のリズムに関心を持ち、意欲的に朗読・暗唱しようとしている[関心・意欲・態度](評価カード) ・仮名遣いや語句の意味、心情に注意しながら表現方法を工夫している。[言語](評価カード)
1	当時の武士の生き方について感想を持つ。	・これまで学習してきた「祇園精舎」「敦盛の最期」(「扇の的」)から、当時の武士の生き方について自分なりの感想を書く。	・『平家物語』の底流にある無常観や、当時の武士としての価値観に触れて感想を書いている。[書くこと](ワークシート)

4. 本時の学習

- (1) ねらい 文章のリズムのよさを生かしながら朗読する。  
 (2) 準備 「祇園精舎」模造紙、評価カード、「扇的」プリント、「祇園精舎」暗唱用ワークシート

(3) 展開

学習内容 生徒の活動	時間	教師の活動及び支援	形態	評価の観点 A規準B規準
1. 「ダウトを探せ」をする。	5分	・冒頭「祇園精舎」を故意に変えた文章を提示し、誤りを指摘させて、朗読や暗唱で間違いやすい部分を確認する。	一斉	・誤りを指摘している。(観察・発言)
2. 朗読する。 ・「祇園精舎」と「敦盛の最期」(とどちらか一方)を隣同士で朗読をし、聴き合う。 ・評価カードに相互評価と自己評価をする。	25分	・5分間練習の時間をとる。 ・「祇園精舎」については、暗唱できる場合は暗唱するように指示する。 ・「敦盛の最期」は長いので、とのうちどちらでも好きなほうを朗読できるようにする。 ・自分が読むだけでなく、相手の朗読を聴くことによって音声言語の楽しさを味わえるように、ペア学習を取り入れる。 ・評価カードは、表現の上手さだけにとられないように、関心・意欲に関する項目も取り入れる。 ・早く終わった場合は教科書を交換して朗読し、互いの表現の工夫にも触れられるようにする。	ペア	評価カードの評価項目 ・繰り返し練習して冒頭部分を暗唱しようとしている。 A ・歴史的仮名遣いに注意して読める。 B ・リズムカルに読める。 B
3. それぞれの課題に取り組む。 (3択) 「扇的」を読む。 「祇園精舎」暗唱プリントで暗唱に挑戦する。 もう一度朗読に挑戦する。	17分	・評価カードを参考にして次の課題を決めさせる。 「扇的」について簡単に説明し、プリントを用い、黙読(歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す) 微音読 語意を調べて意味をつかむ できれば暗唱、のように各自が段階ごとに学習できるようにする。 「祇園精舎」の文章を穴埋めで答えるプリントを用い、教科書を見ずに書く教科書を見て確認する 意味を書き写す 暗唱に挑戦、の順に各自学習できるようにする。暗唱は教師が聴いて評価する。 朗読に再挑戦する場合は、もらったアドバイスを参考に練習させ、教師が聴いて助言・評価する。	個別	・表現を工夫して登場人物の気持ちを表せる。 A ・平家物語の他の部分にも関心を持つ。 A
4. 次時の学習内容をつかむ。	3分	・次時は、これまでの学習をもとに、当時の武士の生き方について自分なりの感想を書くことを伝える。 ・本時に取り組んだそれぞれの課題が次時に生かされるようにする。	一斉	